

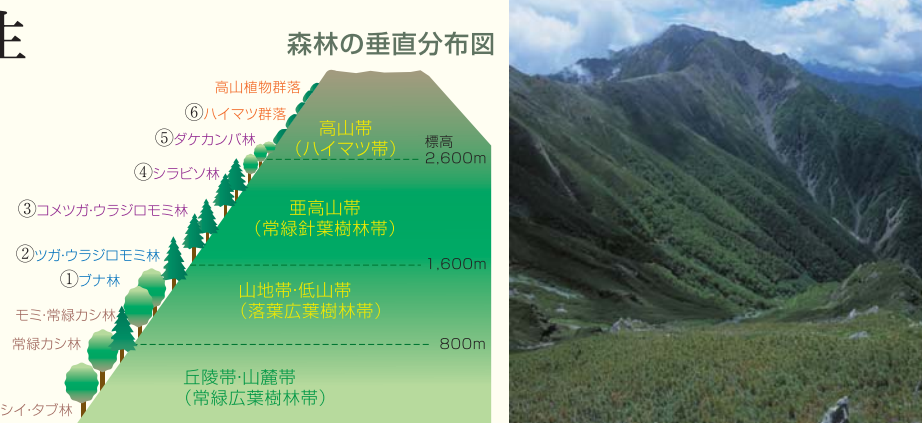
生態系・生物多様性遺産 (植物)

南アルプスの森林植生

南アルプスは、日本列島のほぼ中央に位置し、3,000m級の山々が南北に連なります。低緯度に位置し、温暖な太平洋側に近いため降雪量は日本海側に比べると少なくなっています。その反面、静岡県側では降水量は年間3,000mmと多雨な地域です。

亜高山帯より下部は広大な鬱蒼とした森林があり、標高800m以上の山地帯ではブナ林やツガ・ウラジロモミ林、内陸部ではミズナラ林が成立します。標高1,700~1,800m以上になると、シラビソ、オオシラビソ、コメツガ林の亜高山帯の林に変わります。

降水量の多い地域では山地帯上部から亜高山帯下部にかけて、落葉広葉樹や常緑針葉樹の中にウラジロモミが混生した林が見られ、部分的にダケカンバ林も見られます。高山帯ではハイマツ群落のほか、いろいろな高山植物の群落が見られます。



森林の垂直分布：野呂川源流から見た中白根岳

① 落葉広葉樹林 (ブナ林)

標高800~1,600mに分布しており、野呂川の広河原周辺や早川の大門沢周辺、大井川支流の寸又川流域の一部にわずかに残っています。広河原のバス停の対岸にはブナ、ミズナラ、シノノキ、カツラなどの巨木の森が保全されています。



早川流域大門沢下流の落葉広葉樹林

② ツガ・ウラジロモミ林

落葉広葉樹林の森林の中にツガやウラジロモミなどの常緑針葉樹が混じって生育しています。寸又川流域に分布しているものの一部は「原生自然環境保全地域」として保護されています。



広河原の針広混交林



荒川岳南東面のダケカンバと森林限界

③ コメツガ・ウラジロモミ林

標高1,600~1,800m付近に分布しており落葉広葉樹は少なく、コメツガとウラジロモミの密度が高いのが特徴となっています。



野呂川両岸付近のコメツガ・ウラジロモミ林

④ シラビソ林

標高1,800~2,600mの範囲にはシラビソ林が広がっており、南アルプス亜高山帯の景観を形成しています。



野呂川越上部のシラビソ林

⑤ ダケカンバ林

標高2,600~2,800mの間に分布しており、黒々としたシラビソ林の上に、明るい緑色をした森林が帯のように茂っているのがダケカンバ林です。上限の2,800m付近は森林限界となっています。

南アルプスの植物

氷河期の遺存植物



南アルプスの山々の動植物の中には、氷河時代と深い関わりを持っているものが多く見られます。これまでの研究によれば、今から約2万年前をピークとする最終氷期には、今の日本の年平均気温より7~9℃も低く、北海道は大陸と陸続きとなっていました。この時代、寒冷な気候に生活していた大陸の動植物が日本列島に南下して来ました。

その後、気温も上がり後氷河期になると、これらの動植物は再び寒冷な気候を求めて、高緯度地方や標高の高いところに生育場所を移動しました。従って、そのような植物は、現在高山の山頂域などに孤立して分布しています。このような経緯をたどった植物を「氷河期の遺存種」といいます。「氷河期の遺存種」には、南アルプスを代表するキタダケソウの他に、タカネマンテマ、チョウノスケソウ、ムカゴユキノシタ、ムカゴトラノオなどが知られており、いずれも生育の南限となっています。

高山植物は、寒冷地の気候に生きる植物です。現在問題となっている地球温暖化が進むと、逃げ場を失い、絶滅する可能性は非常に高いと考えられています。また、高山植物を食草とするチョウも、絶滅してしまう可能性があるのです。



タカネマンテマ



チョウノスケソウ



ムカゴトラノオ



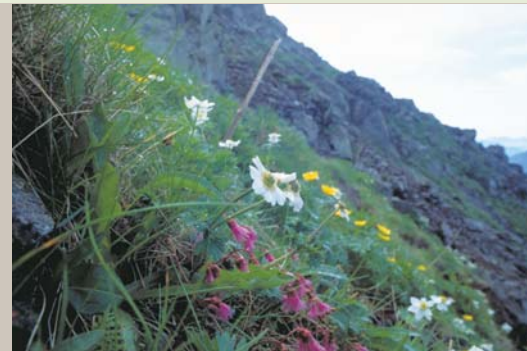
ムカゴユキノシタ (撮影：村松正文)

多様な環境に生きる高山植物

南アルプスは山の稜線が南北に連なっており、その稜線から東西へと斜面が降りています。そして山の西側では斜面が比較的緩やかなのに対し、東側は急になっています。このような南北に続く山に対して、西側から強い風があたり、西斜面から山の稜線にかけては強い風が当たる風衝地となっています。風は冬季に特に強く、こういった風衝地では積もった雪が直ぐに吹き飛ばされて、土は乾燥して、低温にさらされる場所となっています。一方、稜線の東側では、風によって飛ばされた雪が吹き溜まります。この雪は、雪渓を造り、夏近くまで溶けずに残りますが、その後は溶けることで周辺に水分を供給します。また、冬季は地表を雪が覆うことから、地中の温度の低下は一定のところまで止まり、風衝地と比べて高い温度に保たれるようになっています。このように地形によって気温や水分の条件が変わることから、南アルプスの高山帯ではそれぞれの場所に応じた高山植物が生育しています。



間ノ岳の高山植物群落



北岳の高山植物群落

○ 風衝地の矮木群落

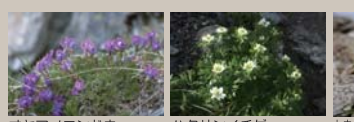
強風でも揺が大きくて土面が安定している場所に生育する植物群落で、ハイマツ群落の周囲にも見られます。



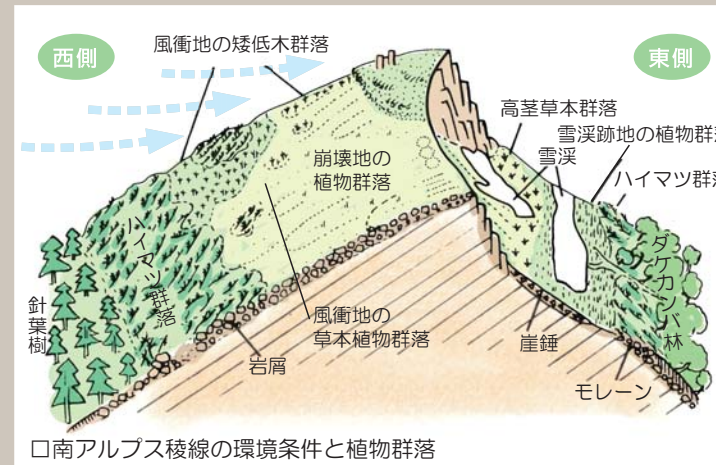
イワウメ キバナジャコウグサ クロマメノキ

○ 風衝地の草本植物群落

風が強く、冬でも雪が積もることのない稜線沿いに生育する丈の低い草本の植物群落です。



オヤマノエンドウ ハクサンイチゲ トウヤクリンドウ



南アルプス稜線の環境条件と植物群落

○ 崩壊地の植物群落

地表の土壌の移動が激しい周水河地形周辺の砂礫地や、雪田の底、崩壊地などの厳しい条件下に適応している植物群落です。



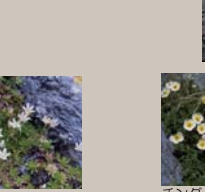
オヤマノエンドウ、ハクサンイチゲ、トウヤクリンドウ



ミヤマムラサキ イワベンケイ シコタンソウ

○ 雪渓跡地の植物群落

雪解け後に出現する植物群落であり、急斜面にできた雪渓が主体のため湿性のお花畑は少なく、乾燥地に適した植物が生育しています。



チングルマ、ミヤマキンバイ、アオノツガザクラ

○ 高茎草本植物群落

丈の高い草本類で構成され、一般的にお花畑といわれる植物群落で、水分・栄養条件の良いところに発達します。



テガタネドリ シナノキンバイ タカネグナイフワロ (撮影：伊井和美)

南アルプスと限られた地域に生育する植物

南アルプスには、南アルプス固有種や、南アルプスと限られた地域にのみ生育する種があります。北岳のシンボルであるキタダケソウは、北岳山頂部のみならず南東面の石灰岩分布地に限定して見られます。キタダケソウは、朝鮮半島に分布する種と同一種との見解がありますが、日本では北岳の狭い範囲にしか見られません。近縁種では北海道の高山地帯にヒダカソウやキリギシソウが分布しています。

ほかにキタダケヨモギや、キタダケトリカブト、キタダケキンボウゲなどは南アルプスにのみ生育し、タカネヒゴタイ (別名：シラネヒゴタイ) やサンプクリンドウ、キタダケナズナなどは南アルプスとその周辺の限られた地域にのみ分布しています。



キタダケソウの自生地



朝日に輝いて咲くキタダケソウ



キタダケトリカブト



キタダケキンボウゲ



タカネヒゴタイ



サンプクリンドウ



キタダケナズナ